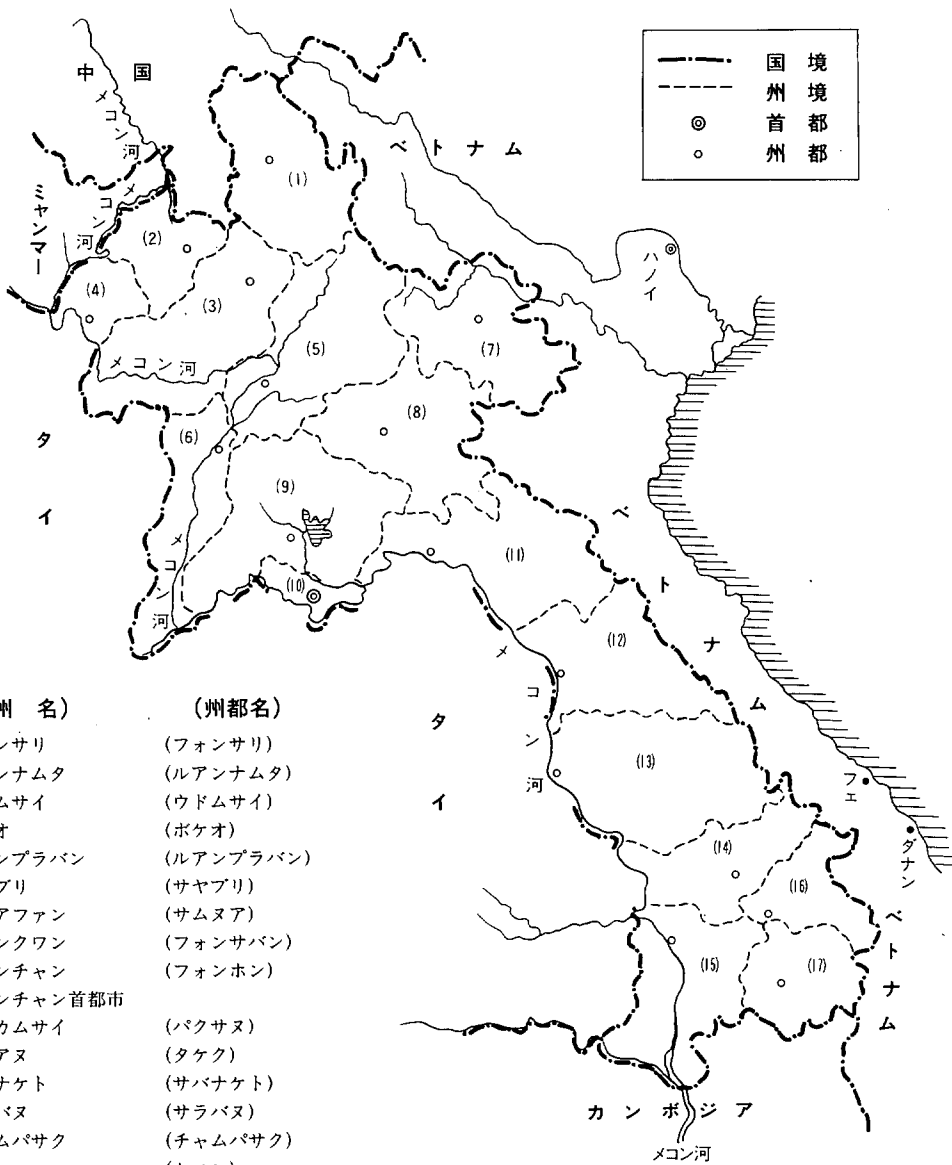


ラオス

ラオス人民民主共和国

面積 23万6800km²
 人口 436万人 (1992年央)
 首都 ビエンチャン
 言語 ラオ語

宗教 仏教 (上座部)
 政体 社会主義共和国
 元首 ヌハク・ブームサバン大統領 (1992年11月25日選出)
 通貨 キップ (1米ドル=717キップ 銀行レート1993年10月)



(州名)

(州都名)

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) フォンサリ | (フォンサリ) |
| (2) ルアンナムタ | (ルアンナムタ) |
| (3) ウドムサイ | (ウドムサイ) |
| (4) ボケオ | (ボケオ) |
| (5) ルアンブラバン | (ルアンブラバン) |
| (6) サヤブリ | (サヤブリ) |
| (7) フウアファン | (サムヌア) |
| (8) シエンクワン | (フォンサバン) |
| (9) ビエンチャン | (フォンホン) |
| (10) ビエンチャン首都市 | |
| (11) ホリカムサイ | (バクサヌ) |
| (12) カムアヌ | (タケク) |
| (13) サバナケト | (サバナケト) |
| (14) サラバヌ | (サラバヌ) |
| (15) チャンパサク | (チャンパサク) |
| (16) セコン | (セコン) |
| (17) アトプー | (アトプー) |

特別区

1993年のラオス

党組織強化による体制固め

木 村 哲三郎

1992年11月に死去したカイソン前大統領の後を継いだカムタイ新政権の課題は、刷新路線をいかに混乱なく、かつラオスのアイデンティティを失うことなく進めるかである。人民革命党が指導力を発揮してこそ刷新の続行も社会の秩序と安定も得られる。このため党議長であるカムタイ首相は、人民革命党の組織強化に努めると同時に、行政府や公社の汚職摘発を実施した。カムタイ新政権が内部固めを図ったものと言えよう。

ラオスと中国やミャンマーとの間で国境画定、貿易、投資の分野において多くの実務的協定が結ばれ、人や物資の往来が活発になった。特にタイとは公式の国境通過点が増設され、交流は一段と拡大した。1993年は電力開発に対するタイ企業の大規模投資が、またタイ民間銀行による支店開設が相次いだ。タイ軍部がタイに基地を持つラオス反政府運動を厳しく取り締まるようになったためにタイ・ラオ関係の進展に障害はなくなった。

こうした周辺国との実務関係の進展を図りながら、他方で新政権はベトナムとの特別な関係を再確認した。カムタイ首相が4月訪越し、ベトナムからはレ・デュク・アイン大統領が来訪した。

1993年のGDPの成長率は6.0%で前年に比して低い成長となった。アジア開発銀行は4.0%と低い数字を発表した。低成長の原因はGDPの60%近くを占める農業の不振である。政府は粳生産は160万トンの目標に対して、149万トンと発表しているが、早ばつの被害は予想外に大きく、91年の122万トン水準に止まったものと思われる。

国内政治

●内閣改造 2月、新しい国民議会はヌハク大統領とカムタイ首相の再任を決定した。カムタイ首相は直ちに新内閣を組織し、議会の承認を得た。

ほとんどの閣僚が留任したが、若干の省庁の統廃合、新閣僚の任命が行なわれた。

経済・計画・財政省は、計画・協力委員会と財政省とに分割された。対外経済関係省は商業省に変わり、科学技術省は廃止された。人事ではプーン・シバースト副首相は依然として外交問題担当ではあるが、外相のポストをソムサバト・レンサバットに譲った。新設の財政相にはカムサイ・スハヌボンが就任した。前対外経済関係相のファオ・ブナポンは官房長官に就任し、商業相にはソムバディット・ボラサンが就任した。

新内閣では経済は計画・協力委員会議長のカムプイ副首相とカムサイ財政相が担当し、外交はカムタイ首相とソムサバト外相のコンビが動かしているように見える。12月、プーン・シバースト副首相はヌハク大統領やプーミ・ボンピット党中央委員会顧問とともに国家金章などの勲章を授与された。プーン副首相はすでに現役を退きつつあるのかも知れない。

●世代交替 国民議会や内閣などの政治機構は憲法に則って整備されているが、ラオスの政治権力は人民革命党の政治局にある。1993年にはこの政治局に少なからぬ変動があった。

まず2月に元政治局員で中央委員会顧問のシムボン・ロバンサイが死去した。9月には党の宣伝教育を担当したソムラト・チャンタマト政治局員が死去した。彼は1991年の第5回大会でカムプイ副首相やトンシン党組織局長とともに政治局入りした新鋭であった。そして94年1月7日には元政治局員のプーミ・ボンピット党中央委員会顧問が死去した。叙勲を花道に引退が予想されるヌハク大統領やプーン副首相を加えると、91年の第5回党大会で選出された政治局員11人のうち残っているのはカムタイ中央委員会議長以下7人である。

カムタイ議長を除く6人の政治局員のなかではサマーン国会議長とカムプイ副首相およびトンシン党組織局長の台頭が目立っている。これらの比較的若い政治局員の台頭は、カムタイ議長が政治局内での地歩を固めつつあることを示している。カイソン時代にカムタイ議長と同等の地位にあった古い政治局員は徐々に現役から引退する年齢に達しているからである。

●**党組織の強化** ラオス版ベレストロイカの進行中に国父ともいうべきカイソンを失って、人民革命党の求心力は大きく弱まった。カムタイ新指導部は人民革命党の組織立て直し、規律強化や党員の質の向上に取り組んだ。経済改革や門戸開放は党員の墮落や汚職を招いた。

何よりも経済改革の具体的政策の実行者は人民革命党員である。制度や機構が整えられ、法律や政令が出されてもそれを運用する人がいなければ無意味である。早くも1月21日、党は組織任務に関する第7回全国会議を開いた。組織局長のトンシン政治局員によると、中央級の政府機構の再編整備と地方級の州の分割、新区の設立などの行政再編に合わせて党組織を再編強化することが当面の任務である。

4月には党・国家統制委員会幹部の全国大会が開催され、党員や政府官吏の汚職や腐敗の現状が報告された。統制委員会委員長のマイチャンタン政治局員は、全国17州のうち15州の党組織を監査した結果、これらの州の党組織単位のうち287単位が強力、1万7556単位が良好、2201単位が弱体、人民革命党員のうち8688人が強力、1万5754人が中程度、2万2879人が弱体、200人が党員として不適格と評価されたと述べた。この大会では各レベルに汚職や国家財産の横領とたたかう臨時の委員会を設置することが決定された。

6月、首相が直接指導する独立した機関として中央特別汚職取締委員会が設置された。その任務は幹部、党員、人民に政治やイデオロギーの分野での任務を明確に理解させ、汚職に反対し、汚職防止に関する政令と党の計画・政策の履行に広く参加するよう促す教育・訓練を行なうことである。汚職対策は人民革命党内ばかりでなく、行政幹部や広く一般市民にまでその対象を広げたのである。

人民革命党は党組織代表者全国大会を11月にも開催した。ソ連など旧社会主義諸国が崩壊した後、自由主義経済諸国との交流・協力のなかで市場経済化を押し進めるという新しい状況下、人民革命党は組織再建、党員の規律やイデオロギー堅持を図らねばならない。カムタイ中央委員会議長兼首相はとくにこの会議で演説し、党が指導性を発揮してこそ国の独立、安定、発展は保障される、党の指導的役割を放棄することはあり得ない、党の基礎単位が弱体化した原因は上級の指導が欠如したことが原因であり、今後は中央からの指導を強める、と述べた。

●**汚職摘発と保守派** 汚職反対のキャンペーンに促されて1993年には国営企業幹部の汚職が摘発され、有罪の判決を受けた。二、三の例を挙げると、国営ラオス航空のタウンフーン社長が横領とセクハラで懲役5年、ワツタナウオン輸出入公社の専務らが木材不法取引による国家資源横領の罪で懲役20年、国営木材社のカムフーン社長が横領と脱税の罪で懲役7年の判決を受けた。

反汚職キャンペーンは開放政策全体にも影響せざるを得ない。6月プーミ・ボンピット中央委員会顧問はオサカン情報・文化相らに対して、ラオスの幹部と人民を暴力的手段によらずに変革せしめる心理戦の危険が増大しつつあると指摘した。その徴候として売春、外国文化に追従する若者達の墮落したダンス、ギャンブルを挙げた。8月、党政治局はマスコミに対し、党の指導と政府の管理を強化する決議を行なった。プーミ・ボンピット中央委員会顧問は12月、1994年4月に開通するタイ・ラオス「友好橋」について、橋の開通には良い面も悪い面もある、両者を比較してみても次の橋をメコン河にかけるかどうかを考えるべきである、と語った。現役を引退したとはいえ、プーミ顧問は改革開放に慎重な姿勢を示す革命世代を中心とする保守派の声を代弁したとみられる。

外 交

●**対越関係の重要性** 新しい国民議会による再任を得て、カムタイ首相はラオス人民革命党中央委員会議長として、4月にベトナムを訪問した。

カイソン前政権の後を継いだカムタイ新政権がベトナムとの間にどのような関係を構築するかが注目された。4月4日に発表された共同コミュニケでは両党、両国、両人民間の特別な友好と連帯および全面的協力を強化・発展させることを確認した。双方は国際情勢についての認識も一致し、ASEAN諸国との関係を拡大して行くことで合意した。カンボジア問題についての認識も一致している。双方の連帯、協力の姿勢は一層強まったように見える。しかしコミュニケには双方の立場の違いを示すものもある。第1は全面的協力を謳いながらも、それは同志愛と実効性を原則として、それぞれの能力に応じたものになってきたと述べた部分である。ラオスはベトナムの援助に依存することなく、広く世界各国からの援助を受けるべきだと解釈されよう。事実ラオスは各国から経済援助を受け、ベトナムからのそれは小さい。

第2はメコン河開発についての文言で、そこではタイ、カンボジア、ラオス、ベトナムの3カ国間の協議が取り上げられているが、中国とミャンマーへの言及はない。メコン河上流開発でラオスは中国、ミャンマー、タイの3カ国とすでに協議しているののである。

第3はカムタイ首相訪問と同時に両国に住むそれぞれの僑民の身分を保護する協定が調印された。カンボジアでベトナム僑民が迫害されている例からみて、ラオスにおけるベトナム僑民保護の必要が生じたものと思われる。

上記のように潜在的な相違点がありながらもラオスとベトナムは4月末に1993年経済・文化・科学・技術協力協定に調印し、11月にはベトナムのレ・ディク・アイン大統領のラオス訪問にみられるような緊密な関係を保持している。

●**タイとの実務関係が進展** ベトナムとの関係がイデオロギーや軍事的、政治的配慮に規定されているのに比べて、ラオスのタイとの関係はより経済的なものである。6月にタイのチュアン首相は各閣僚や経済人を含め総勢112人の代表団を率いてラオスを訪問した。双方の関係は三つのグループに分かれて政治、経済、治安問題を討議した。今日なおタイには共産政権を嫌って出国したラオス難民3万人(一説には3万7000人)が国境近くのキャ

ンプに收容されている。これらのキャンプはラオス国内でゲリラ活動を続けている反政府分子のベース・キャンプの役割を果たしている。タイ政府はキャンプを閉鎖する意向を固め、ラオス政府と国連に難民の帰国計画の推進方を要請した。反政府分子のなかでもモン(Hmong)族は強力で、かつてのラオス王国軍バン・パオ将軍らに在米反共ラオ人グループの財政的支援を受けていた。治安問題討議に参加したタイ軍部もモン族の抵抗運動を支援しないことを明確にした。政治問題ではかつて両国の衝突の原因となったボーテン地区の国境画定の作業を進めること、両国の外交官や官吏に対してビザ取得の免除を考慮することで合意した。経済問題では電力開発における協力協定と投資促進協定とが調印された。ラオスは西暦2000年までに150万kWの電力をタイに売電できるようにする。このため当面ナムタとナムグムの2ダム建設にタイの協力を要請した。またラオスはタイのナムパノムからタケクを通してベトナムのビンに通じる12号道路の建設構想を明らかにした。財政面では二重課税の防止、ラオス製品に対するタイ関税の引き下げが話し合われた。

9月の両外相によるラオ・タイ協力委員会ではタイがランプラバン空港再建に5000万ドルを拠出することが決定した。10月12日にタイのチナワト・コンピューター通信社は総額6300万ドルにのぼるラオスの電話・放送サービスの開発事業を受注した。11月にはタイ＝フランス＝オーストラリアのコンソーシアムがナムトウエン第2水力発電所建設事業を受注した。チュアン首相の訪問後、このようにラオスに対するタイの政府、民間の経済協力は急激に拡大している。1993年までのタイからの投資は167件、1億9800万ドルに達し、金額では全外国投資の40%を占めている。第2位の台湾が22件、4100万ドルで全体の8%であり、タイの突出ぶりが分かるであろう。

中国からは銭其琛外相や遲浩田国防相が来訪し、ラオスからもカムタイ首相やトンシン政治局員らが中国を訪問した。1月、銭外相の来訪の際にラオス・中国国境条約と両国相互投資促進・保護協定が調印され、11月には昆明にラオス領事館が開設された。

ラオスはこのほかカンボジア、ビルマやASEAN諸国との友好関係を続けているが、他方で北朝鮮とも友好関係を保っている。1993年は両国の間で要人の往来が目立った。4月にトンシン政治局員、

7月にはサマーン国会議長、12月にはカムタイ首相が北朝鮮を訪問した。また北朝鮮からは10月に楊享燮最高人民会議議長が来訪した。両者の関係は経済的なものというより、政治的、イデオロギー上のものといえる。

経 済

●米作の不振 1993年のGDP成長率は前年の7%から6%に下がった。内訳をみると農業が3.5%、工業・手工業が9.2%、そしてサービスが6.9%であった。農業の不振は稲作が早ばつの被害を蒙ったためである。コメ生産（粳米換算）は目標の160万トに対して、149万トと報告された。しかし実際は91年の水準の122万トといわれており、農林省も94年の不足量を約30万トと見積っている。農業の成長率も全体の成長率も下方修正されるかも知れない。

ラオス政府は1992年以來、コメ生産160万トを目標に掲げてきたが、早ばつ、洪水、虫害などの天災で目標に達しておらず、例年コメ不足である。経済改革や開放体制への移行で農民が農業を止めて都市や町に出るために、遊休地が増加していることも不振の原因の一つであることが明らかになった。5月15日、政府は遊休地を減らすために新しい土地税法を公布した。これによると都市の建設用地に対して1平方メートル当たり、首都ビエンチャンで5ト、中部の都市タケクで10ト、1トあたり収量3.5ト以上の農地に対しては6000ト、果樹園に対しては5000ト、遊休農地に対しては4000～6000トが課される。この政策が効果をあげるかどうかは、土地税を実際に徴収できるかどうかにかかっている。

工業生産の成長率は9.2%であるが、電力生産が17%も伸びたことが大きな要因で、その他の分野では期待はずれに終わった。工業、手工業への外国の投資は前年の45件、4390万ドルに対して、1993年は50件、7732万ドルに増加しているので、93～94年には政府が目標とした工業成長率10～12%を達成する可能性も出てきた。90年と92年には縫製部門に投資が集中したが、93年には鉱業と繊維以外の製造業への投資が増加している。計画・協力委員会の幹部によると90年3月の国営企業の民営化令発令当時600社（うち中央管轄180社）あった国営企業のうち、すでに92年末までに500社が民営化された。残った100社近くの国営企業のうち、93年4

月現在、39社が外国の経営者を迎えて民営化し、26社が新しい経営者を待っており、6社が交渉中、3社が解散となっている。サービス部門への投資は前年の38件、4700万ドルに対して93年は72件、4400万ドルで金額的には減少している。ホテルと銀行への投資が減少したためである。

●外国援助の減少 1993年会計年度予算は歳入が1241.3億キップ、歳出が2240.0億キップで、赤字1000億キップは外国援助で補填される予定であった。しかし歳出実行見込額は1925.6億キップ、国内歳入額1217.0億キップとなった。税制改革および徴税工作が改善されたので、税収は660億キップで、目標の702億の94%に達する予定である。税外収入は徴収率23%にもかかわらず、359億キップが徴収された。目標額を大きく超えたのは国有のビール、ソフト・ドリンク会社、ランサン・ホテルなどの株売却に伴うもので、売却収入は1560万ドルであった。税外収入とは別に木材売却収入からの繰入れ分が198億キップあった。歳出が計画の85.9%に縮小したのは、外国援助が予定どおり実施されなかったためである。給与未払分の支払および給与支払の正常化による通貨増発があったが、他方で税収増、国有企業の売却で通貨が引き上げられたためにマネー・サプライの増大は多くなかった。さらに銀行が預金金利を高め維持したために銀行預金が増加した。これによりインフレ率を6～7%の水準に抑制することができた。

輸出入額については異なった数字がある。Far Eastern Economic Review 誌のYearbookは1993年の輸出は1億5500万ドルに達するが、輸入も増加するので貿易赤字は前年の1億3300万ドルから1億6000万ドルに膨らむと予想している。一方、在北京ラオス大使館経済担当官は輸出2億2000万ドル、輸入3億8500万ドルと発表した（FBIS-EAS-94-005, Jan. 7, 1994）。93年ラオスが受け取ったODAは無償4000万ドル、開発借款は8190万ドルであり例年より少ない。カムタイ財政相は94年の見積りを無償6000万ドル、借款1億～1億2000万ドルと発表した。外国投資は92年の101件、1億3740万ドルに対して93年は157件、1億5130万ドルとわずかながら増加している。外国援助が減少したにもかかわらず、外貨準備は7500万ドルの水準にあり、キップ貨は1ドル＝720キップの水準で安定を維持した。（亜細亜大学教授）

1月10日 ▶政府、1月1日よりカンボジアからの原木輸入を完全に禁止すると発表。

13日 ▶ブラソン・タイ外相来訪。

21日 ▶党の組織任務に関する第7回全国会議（トンシン政治局員・中央委組織局長報告）。

25日 ▶国会選挙総括のために全国選挙委員会会議。

▶マイチャンタン中央監査委員長、ベトナムを訪問。

30日 ▶中国の銭其琛外相来訪。31日ラオス・中国国境条約と両国相互投資促進保護協定に調印。

2月4日 ▶タイのウィモン陸軍司令官来訪。

5日 ▶アジア開発銀行、南部4州の道路193km建設に3300万 F_n の借款を供与。

8日 ▶ラオス政府とタイ、台湾、オーストラリアの投資家の共同出資による初の商業銀行設立。

10日 ▶人民革命党第5期中央委第6回総会。

12日 ▶農林省は中国の天津機械設備輸入社にビエンチャン州サイソムブーン区内の1地区のロンレーン樹を売渡すことで合意。期間10年、年8000立方 m を伐木。

20日 ▶第3期国会第1回会議・議長にサマーン党政治局員を選出。ヌハク大統領、カムタイ首相を再任。新内閣人事、1993-2000年経済社会発展計画承認。

22日 ▶国会、歳出2240億2500万 K 、歳入1241億 K 、赤字1000億 K の93会計年度（92年10月-93年9月）の予算を承認。

24日 ▶シソムボン・ロバンサイ党中央顧問死去。

3月3日 ▶ラオス住民に衛星テレビの受信設備所有が許可される。100 F_n の使用料支払が義務。

11日 ▶カムタイ首相、国防省で軍の強化と建設について訓令。

▶オーストラリアの2企業、ラオス中部で60万kWの大規模水力発電所を建設することに同意。

16日 ▶カムプイ副首相以下の政府代表団、ベトナムを訪問。ベトナムのカイ副首相以下の代表団と会談。

25日 ▶国会法成立。

26日 ▶国庫、ラオス銀行から分離し財政省の管轄下に。

30日 ▶タイの空軍司令官来訪。

31日 ▶タイ軍人銀行のビエンチャン支店開店。

4月1日 ▶カムタイ首相以下の党・政府高級代表団、ベトナムを訪問。特別な連帯と全面的協力関係を強化する措置について意見交換。

3日 ▶トンシン党政治局員以下の党代表団、北朝鮮、中国を訪問。

4日 ▶労働社会福祉省は各機関や使用者に、(1)1日8時間労働、(2)最低賃金額2万6000 K 、日額1000 K 、(3)労働者の疾病対策、休養および退職についての政策の履

行を求める緊急の警告を発表。

6日 ▶タイのロクスレ・グループとイタリアン・タイ開発社はラオス計画協力委員会との合併でラオ醸造社設立に合意。資本金2000万 F_n 、株式の51%はタイ側。

11日 ▶中国の王維澄・中央委・中央政策研究室主任以下の中共中央委代表団来訪。

22日 ▶カムプイ副首相以下のラオス政府経済代表団、ベトナムを実務訪問。

24日 ▶オーストラリアのビルニー開発協力・太平洋諸島問題担当国務相以下の高級代表団来訪。

26日 ▶党・国家統制委全国大会開催。

5月1日 ▶ラオス国家銀行、1000 K 紙幣を発行。1000 K の公式レートは1.39 F_n 。

10日 ▶遅浩田・中国国防相来訪。

11日 ▶ミャンマーのマウン・マウン・キン副首相来訪。両国共同声明を発表。

15日 ▶ソムサワート外相以下のラオス外務省代表団、中国を訪問。

20日 ▶カムタイ首相、輸入税の課税対象から除外されている品目に対して一率価格の5%の行政手数料を課すと発表。外国公館や国際機関のものは除く。

22日 ▶ビエンチャン市知事のウドム党政治局員、中国の北京、昆明、雲南省を訪問。

27日 ▶ソムサワート外相、タイを訪問。現行の10国境検問所に加えて、さらに2常設検問所開設で合意。

6月4日 ▶チュアン・タイ首相来訪。

7日 ▶首相直属の中央級特別汚職取締り委員会設置。

9日 ▶第3回ラオス労働組合連盟全国大会。全国諸州、自治市、諸部門の労働組合員約7万人を代表して172人が出席。12日にカムバン・ピラボン新議長、ブーンボン新副議長以下21人の新中央委員を選出。

10日 ▶ラオス郵便社とフランスのアルカテル社はラオス電話網建設第2段階工事続行に関する協定に調印。

23日 ▶プーミ党中央顧問、ラオスの幹部と人民を暴力的手段によらずに変革せしめる心理戦の危険が増大しつつあると指摘。

28日 ▶農林省、93年全国の木材利用量を合計50万800立方 m と設定。うち伐木許可は21万7600立方 m 。

7月2日 ▶葉選平中国人民政治協商会議第1副主席来訪。

3日 ▶タイのシナワトラー・グループ、94年初めよりラオスでヨーロッパ標準によるデジタル移動電話システムを開始。同グループの営業権は15年間。

8日 ▶ラオス国立党学校代表団、ベトナムを訪問。

15日 ▶アサン内相、タイを訪問。両国国境地域での治安維持協力に関する覚書に調印。

16日 ▶スウェーデン国際開発庁、13号国道ビエンチャン・バクカディン間180kmの修理建設に1600万 ドル の援助を供与。

20日 ▶ソムサワート外相、シンガポールを訪問。23、24日第27回ASEAN外相会議にオブザーバーとして出席。

22日 ▶サマーン国会議長以下の党・国家代表団、北朝鮮を訪問。

27日 ▶ブルネイと大使級外交関係を樹立。

28日 ▶カンボジアのラナリット、フンセン暫定政府共同首相、来訪。

8月4日 ▶チュームマリ国防相、タイを訪問。国境の治安維持協力促進について協議。

5日 ▶カムタイ首相の汚職取締り・防止に関する3月19日付指令発表。

▶カムサイ財政相、税制改革など外国投資を促進する新措置を検討中と発表。

9日 ▶ソムサワート外相は読売新聞と会見し、タイや中国への経済依存を増しつつある現況でもベトナムとの「特別な関係」を堅持・強化すると述べた。

14日 ▶党政治局、マスコミに対し、党の指導と政府の管理を強化する決議を行なう。

17日 ▶首相府は7月末、村民からの徴税、収入、村費に関する責任を各村の行政当局に移譲する首相府政令を發布。以後独自の徴税目標額を設定し得る。

18日 ▶首相令による初の農業振興銀行設立。

23日 ▶ミャンマーと国境画定の基礎となる1万分の1と5万分の1の国境地図を作成し、共同承認した。

27日 ▶第3期国会第2回定例会議。

9月1日 ▶アジア開発銀行、ラオス北部および中部の7都市の給水改善のため1300万 ドル の援助供与を決定。

2日 ▶ソムラート・チャントマツ党政治局員死去。

8日 ▶党中央委員会第7回総会、20日まで開催。

9日 ▶国連世界食糧計画は旱魃の被害が深刻化している北部3州に米3000 ト を緊急援助。費用はオランダ政府が供与。

21日 ▶ビエンチャンで開催のラオス・タイ両国協力合同委員会第3回会議のため、タイのプラソン外相来訪。

25日 ▶カムサイ財政省、世銀・IMF年次総会出席。

27日 ▶第3期国会第2回定例会議。

29日 ▶ソムサワート外相、国連総会出席の途次、日本および米国を訪問。

10月1日 ▶ラオス工業相、米国ロータス社にルアンプラバン州バクウ区バフンの金鉱山100平方 km の開発権を譲渡。2013年4月1日まで。

2日 ▶国会、93-94年国家経済社会開発計画を採択。

4日 ▶最高人民裁判所、ワッタナウォン輸出入社のワッタナ専務に木材の不法取引、国有財産横領の罪で懲

役20年の判決。

5日 ▶北朝鮮の楊亨燮最高人民会議常設会議議長来訪。

8日 ▶来訪中のIMF専務理事、93-95年財政計画支援のため5000万 ドル の借款を承認と発表。

12日 ▶ラオス政府、タイのシナワトラー・コンピューター通信社に対しラオスでの電話・放送サービス開発事業を発注。事業費約6300万 ドル 。

16日 ▶ヌハク大統領、モリリヤスでの第5回フランス語圏諸国首脳会議に出席。

25日 ▶最高人民裁判所、国営木材社のカムフーン・カムウォンテットに横領と脱税の罪で懲役7年の判決。

28日 ▶スイス、ラオスの教育改善のため1500万 ドル （約980万 ドル ）の無償援助を供与。

11月1日 ▶ベトナムのレ・デュク・アイン大統領来訪。

4日 ▶カムタイ首相、カンボジア訪問。

8日 ▶サマーン国会議長、ベトナム訪問。

▶ラオス政府とタイ・フランス・オーストラリア諸社のコンソーシアムは、ナムトウエンII水力発電所（出力60万kW、工費1億 ドル ）建設契約に調印。

22日 ▶人民革命党諸組織代表全国会議、トンシン政治局員を議長として開催。190人が出席。

23日 ▶カムサイ財政相以下の実務代表団、ベトナム訪問。

28日 ▶中国人民解放軍総政治部の于永波主任来訪。

12月1日 ▶ヌハク大統領、ブーン・シバースト副首相、ブーミ・ボンピット中央顧問の3人に勲章授与。

3日 ▶カムタイ首相以下の党国家高級代表団、中国（3～7日）と北朝鮮（7～11日）を訪問。

6日 ▶日本政府、ラオスに12億4700万円（1150万 ドル ）の無償援助供与。

8日 ▶「バサソン」紙社説、「ラオス人民民主共和国は常に正しい外交政策を遵守している」と主張。

14日 ▶カムタイ首相、オーストラリアを訪問。

▶チュームマリ国防相、国境地域の治安維持について協議するためタイ訪問。

15日 ▶ビエンチャンでタイとラオス両国の麻薬対策委員会協議。

16日 ▶シアン・サファントン農林次官は1993年の籾生産は前年比16%減の125万 ト と発表。

18日 ▶ブーミ党中央顧問、タイ・ラオス友好橋を見学し、橋の積極的面と否定的面の双方をみなければならぬと語る。

21日 ▶旱魃のためサバナケットは1994年に8万3522 ト の米不足を予想。

22日 ▶アジア開発銀行、ラオスにおける林業開発と工業用作物の栽培に借款1120万 ドル と無償援助200万 ドル 供与を決定。

① ラオス人民民主共和国政府機構図

大統領：Nouhak Phoumsavan

(1992年11月25日選出, 1993年2月22日再選)

国民議会

閣僚会議

議長：Saman Vi-gnaket (政治局員)

(1993年2月22日選出)

- 首相：Khamtai Siphandon (党中央議長)
- 副首相 (外交問題担当)：Phoun Sipaseut
- 副首相兼計画・協力委員長：Khamphoui Keoboulapha
- 国防相：Choummali Sai-gnason (中将)
- 官房長官：Phao Bounnaphon
- 内相：A-sang Laoli (少将)
- 外相：Somsavat Lengsavat
- 財政相：Khamsai Souphanouvong
- 農林相：Sisavat Keobounphan (将軍)
- 通信・運輸・郵便・建設相：Bouathong
- 情報・文化相：Osakan Thammatheva (中将)
- 労働・社会福祉相：Thongloun Sisoulit
- 工・手工業相：Soulivong Dalavong
- 法相：Kham-ouan Bouppha
- 商業相：Sompadit Vorasan
- 中央銀行総裁：Boutsabong Souvannavong
- 教育相：Phommason
- 保健相代行：Vannalet Latsapho (教授)

② ラオス人民革命党政治局員 (1993年12月現在)

Khamtai Siphandon	(党中央議長, 首相)
Nouhak Phoumsavan	(大統領)
Phoun Sipaseut	(副首相)
Saman Vi-gnaket	(国民議会議長)
Oudom Khatthi-gna	(大衆団体担当)
Maichantan Sengmani	(党・国家統制委員長)
Choummali Sai-gnason	(国防相)
Khamphoui Keoboulapha	(副首相)
Thongsing Thammavong	(党組織局長)

③ ラオス人民革命党顧問委員会

Phoumi Vongvichit

(前大統領代行, 1994年1月7日死去)

Souphanouvong

(前大統領)

④ 国民議会 (国会) 機構

議長 Saman Vignaket 党政治局員

副議長 Khambou Sounisai 党中央委員

◇ Vongphet Saikueyachongtoua 党中央委員

常務委員会 (メンバー7人)

Saman Vignaket 党政治局員

Khambou Sounisai 党中央委員

Vongphet Saikueyachongtoua 党中央委員

Dr. Khamliang Phonsena

Chaleun Yiapaoheu

Dr. Somphavan Inthavong

Phou Lasaphon

国会分科委員会

(1) 国会事務局兼総務委員会

主 任：Chaleun Yiapaoheu

副主任：Noubeng Chanthaphak

(2) 法務委員会

主 任：Khambou Sounisai

副主任：Gnot-saiviboun

◇ : Saman Souvannasat

(3) 経済・計画・財政委員会

主 任：Dr. Somphavan Inthavong

副主任：Bouasi Lovansai

◇ : Bounthan Sovannasouk

(4) 教育・文化・社会委員会

主 任：Professor Phou Latsaphon

副主任：Dr. Siho Bannavong

◇ : Paseut Sisanon

(5) 少数民族問題委員会

主 任：Vongphet Saikueyachongtoua

副主任：Somphon Kha-gnong-ek

◇ : Thongsia Pan-gnasit

(6) 外務委員会

主 任：Dr. Khamliang Phonsena

副主任：Souphanthaheuangsi Sisaleumsak

◇ : Viset Savengseuksa

⑤ 司法機構

最高人民裁判所長官：Kett kiattisak

他に州人民裁判所；都市人民裁判所；地区人民裁判所
軍事裁判所

最高検察院院長：Phai Oula

他に州検察院；都市検察院；地区検察院；軍検察院

主要統計 ラオス 1993年

255

各表出所は、ラオス統計局編、Basic Statistics about the Socio-Economic Development in the Lao P.D.R. 1990, 1991, 1992, 1993.

第1表 人口

(単位：1,000人)

	1985	1990	1992	人口密度 (人/km ²)
全 国	3,618	4,140	4,360	18
州別				
ビエンチャン首都市	381	464	489	125
フォンサリ	124	141	149	9
ルアンナムタ	98	119	125	13
ウドムサイ	189	283	188	12
ボケオ	56	64	104	17
ルアンプラバン	298	337	355	21
フウアファン	212	220	232	14
サヤブリ	226	185	195	17
シエンクワン	163	181	191	11
ビエンチャン	267	305	321	16
ボリカムサイ	123	143	151	9
カムアヌ	215	245	258	16
サバンナケット	549	639	673	31
サラバヌ	189	225	237	22
セコン	51	57	59	8
チャムバサック	407	453	477	31
アトプー	70	79	83	8
特別区*	—	—	73	16

(注) *特別区は1992年ウドムサイ州のXianghne.Hongsa地区と他の2地区を加えて形成された。

第2表 生徒数と学生数

(単位：1,000人)

	小学生	中学生	上級 中学生	高校生	大学生 (人)
1990	567.4	94.8	33.3	1,338	459
1991	581.7	95.3	32.5	908	490
1992	603.0	93.3	35.2	947	514

(注) 高校生には技術専門校を含む。

第3表 主要農産物の生産高と作付面積

(1) 作付面積 (単位：1,000ha)

	1989	1990	1991	1992
米	596.2	656.7	556.9	592.6
メイズ	30.4	48.1	34.2	32.1
イモ・キャッサバ	27.5	19.8	16.6	14.5
大豆	6.0	5.6	6.1	6.1
落花生	6.1	8.5	5.6	14.9
煙草	8.1	12.0	10.2	10.5
綿	7.2	6.9	8.0	7.8
さとうきび	3.8	4.0	2.84	3.29
コーヒー	15.8	17.3	17.9	17.8
茶	0.425	0.383	0.40	0.61

(2) 生産高 (単位：1,000トン)

	1989	1990	1991	1992
米	1,404.1	1,508.4	1,223.4	1,502.4
メイズ	43.9	81.9	68.6	57.7
イモ・キャッサバ	159.9	162.7	132.1	105.1
大豆	4.9	4.5	5.5	5.4
落花生	5.9	8.0	5.6	11.2
煙草	33.5	58.4	45.3	48.3
綿	4.4	5.0	4.8	5.3
さとうきび	126.0	111.9	80.5	94.4
コーヒー	5.4	5.3	6.8	7.4
茶	0.74	1.6	1.7	2.5

第4表 畜産

(単位:1,000頭・匹・羽)

	水牛	牛	豚	やぎ・羊	家禽
1985	939.4	626.5	1,189.8	81.5	6,470.8
1989	1,026.1	816.5	1,349.9	105.2	8,249.7
1990	1,071.8	841.9	1,372.1	139.4	7,884.3
1991	1,099.5	899.1	1,468.6	116.8	8,028.7
1992	1,130.7	992.9	1,560.5	103.9	8,904.2

第5表 工業生産

	1989	1990	1991	1992
電力(1,000kWh)	708.0	844.0	827.7	752.6
すず(t)	384.0	480.0	349.0	346.0
ビール(1,000リットル)	37.5	43.0	68.9	95.9
清涼飲料(1,000リットル)	27.5	38.5	59.8	63.7
洗剤(t)	1,335.0	2,000.0	566.0	769.0
煙草(100万箱)	21.9	30.0	29.6	30.0
合板(1,000枚)	814.0	1,000.0	346.6	304.3
衣服(1,000着)	1,090.0	863.5	1,500.0	2,750.8

第6表 主要輸出品

	1989	1990	1991	1992
電力(100万kWh)	469	607	562	461.9
木材(1,000m ³)	20	34	12	47.0
合板(1,000枚)	450	641	650.0	58.0
コーヒー(t)	3,921	5,900	6,111	8,500.0
すず(t)	—	820	354.0	325.0

第7表 主要輸入品

	1989	1990	1991	1992
トラック(台数)	389	317	400.0	450.0
燃料(1,000t)	124	134	150.0	170.0
セメント(1,000t)	107	101	110.0	125.0
綿糸(t)	290	150	400.0	121.0
布地(1,000m)	1,254	1,720	7,000.0	75,000.0
砂糖(t)	17,995	10,500	11,550.0	13,000.0
マシン(台数)	5,618	4,240	5,000.0	5,650.0
米(t)	42,000	20,000	26,100.0	7,014.0
鉄(t)	50	47	52.0	60.0

第8表 外国投資の認可件数と金額

(1988~93年の累積)

分野	農業	工業	サービス	合計
件数	75	159	187	421
前年までの件数	20	147	113	280
金額(100万ドル)	103	217	265	585
前年までの金額(100万ドル)	31	237	223	491

(出所) 前掲, 1992, 1993年版およびピエンチャン放送(FBIS-EAS-94-018, 27 Jan. 1994, p.39)。